

神の鳥 ライチョウ

絶滅させないために、わたしたちができること

絶滅のおそれが高い

近年、捕食者の増加や温暖化の影響等により数が減り、絶滅危惧種に指定。現在、環境省を中心に保護増殖事業を行なっています。

ライチョウの保護には、登山者のマナー向上やライチョウサポーターの皆様の協力、関連基金への募金といった、国民や企業を挙げての協力が必要なのです。

氷河期からの生き残り

ライチョウは氷河期に大陸から日本に移り、その後、高山帯に取り残された鳥です。

歴史的にも、古来より『神の鳥』として信仰されてきたため、狩猟の対象となってきた外国のライチョウとは異なり、人をおそれない特徴を持っています。

ライチョウの公開はじまる

今年3月15日より、保護増殖事業の一環として、全国5施設でライチョウの公開展示を始めます。
(公社)日本動物園水族館協会では、展示を通じてライチョウの保護についての理解を深めるとともに、積極的な情報発信をしていきます。

生息域外保全の取り組み

ライチョウの保護増殖事業では、ライチョウの生息地での保護活動とともに、(公社)日本動物園水族館協会加盟施設にて、野生復帰も見据えての、飼育と繁殖の取り組みを実施しています。

ライチョウ展示施設

恩賜上野動物園(東京)・富山市ファミリーパーク(富山)・市立大町山岳博物館(長野)
那須どうぶつ王国(栃木)・いしかわ動物園(石川)

※動物の状況や体調などにより、公開時間の短縮や展示を休止する場合がありますので、ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

以下の施設でもスバルライチョウを飼育して、ライチョウ飼育の準備と基礎研究を行なっています。

秋田市大森山動物園(秋田)・多摩動物公園(東京)・横浜市繁殖センター(神奈川)

横浜市立金沢動物園(神奈川)・長野市茶臼山動物園(長野)・飯田市立動物園(長野)

見守るだけでは、守れない

私たちが生活する里と里山の自然のバランスが乱れたことが、奥山にすむライチョウの生活を脅かしています。自然との調和を保ってきた先人の知恵を見直し、時代に合った自然との付き合い方を模索しなければなりません。



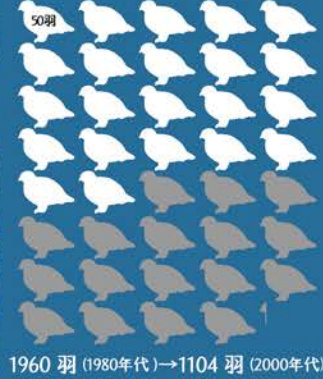
白山
絶滅

白山では2009年に、約70年ぶりにメス1羽が確認され、2016年まで定着していました。



火打山 25羽→28羽
その後の減少が懸念されている

北アルプス



1960羽 (1980年代) → 1104羽 (2000年代)

危機その① 温暖化

高山帯という、いわば『島』に取り残されたライチョウは、温暖化により生息地を失います。

危機その② 捕食者

キツネやテンなどの里山の動物が高山帯に侵入、ライチョウを捕食しています。

危機その③ 植生破壊

里山で増えたシカやイノシシが高山帯に侵入、高山植物を食べ尽くすおそれがあります。

乗鞍岳

120羽→145羽

御嶽山

125羽→70羽

植生が回復？！

火打山では、近年、イネ科植物の繁茂や低木林の拡大等により、良好なライチョウの生息環境が縮小しています。現在、イネ科植物等の除去試験を行っており、その成果が徐々に始まっています。

個体数が回復？！

南アルプス北岳でのケージ保護事業と捕食者対策事業によって、個体数が回復傾向を見せています。

ライチョウ復活？！

中央アルプスで50年ぶりにメス1羽が確認されました。これをふまえて、今後さまざまな取り組みを検討していきます。

南アルプス



720羽→306羽
最も減少が著しい

数が激減！！



●足環(あしわ)確認情報を教えてください● 足環で個体識別をして移動状況や寿命などを調べ、保全事業に活用しています [ライチョウサポーター](#) 検索